



金と学問・芸術

近江商人余話2

◇近江商人というと、天秤棒やソロバン勘定のイメージが強く、とかく金に明け金に暮れる人種とされているのは一面的な見方です。とことん商人道を極めたればこそ、学問や芸術に心底から心を奪われた人たちも、多くいた形跡があります。

◇「先生、私たちはいっぱいお金も稼いで、ありとあらゆる道楽をし尽くしましたけれど、『源氏物語』などの講義を先生から受けてみましたら、学問ほどの快楽はこの世にないということがよく分かりました」

江戸期の大國学者・本居宣長のもとに集まった近江商人たちがこう述べた、と小林秀雄の著書にあります。

◇中途半端なことしかできない小者の商人には言えない言葉であり、この世はどうせ色と欲などという通俗的な「わけ知り」からは遠くはなれて、学問・芸術の真実の楽しみがわかっていた近江商人も、かなり大勢いたのでした。

「プラットホーム」での別れ



鈴木房子(木ノ本出身)

私にとっての北陸本線・木ノ本駅は、なつかしい故郷の駅ですが、それに加えて、当時五歳だった私と父との今生の別れの場所として、忘れることのできない駅でもありました。昭和十二年七月に日中事変が勃発。それから間もなく、父に召集令状が届いたので。

やがて父は、入隊後外地へ向けて出立することとなったある日の夕刻、父を乗せた軍用列車が木ノ本駅へ停車する、と知らせてきたのです。

私は、出産後病魔に冒され他界した母にかわった二度目の母と、幼い二人の妹とともにプラットホームで列車の到着を待ちました。五歳だった私は叔父に抱きかかえられ、ごつた返していたホームから列車内の父の姿を追いました。

幼かった私には、その時の情景のはっきりした記憶は、車窓から身を乗り出し大声で軍歌を歌っている父の姿を発見し、近寄ったところまでです。

父は叔父に「下の二人の子供には母親がいるが、この房子には両親がいなくなるのが不憫でならない、房子を頼む」と短い言葉を残し、列車は無常にもホームを後にしたのでした。

父が外地へ向かってから間もない十二月、非情にも戦死の公報が届きました。「プラットホームでの別れ」からたった五ヵ月後の悲しい知らせでした。

それから母は二人の妹を育て、私は別棟で祖父母の手で育てられ、地元の女学校卒業まで面倒をみてもらいました。卒業後、叔父が住む東京へ引き取られ、やがて縁あって沼津の地へ嫁ぎ、今は夫と子供二人、孫四人、曾孫一人の身となり幸せです。

数年前、木ノ本の駅舎は移動したそうですが、旧駅舎はプラットホームとともに「老人憩いの家」として、第二の役目を果たすとのこと、心安らぐ思いです。

ご無沙汰の弁 衆議院議員（内閣総理大臣補佐官） 細野 豪志（近江八幡出身）



平素よりしゃくなげ会の皆様には、ご支援をいただき感謝申し上げます。政権交代からはや一年半、この間、私は副幹事長・幹事長代理・企業団体組織委員長を務めてまいりました。政権与党の中樞に身を置き、能力以上のポストにつき、成果を出そうと努力してまいりました。しかしながら、参院選での敗北、そして現在の国を取り巻く環境は、決して皆さまに胸を張れる状況ではありません。

このような時にこそ、しゃくなげ会の皆様にお会いをし、ご意見を頂戴する機会をもつと作らねばという思いをいだきつつも、ご無沙汰をしております申し訳ありません。久しく皆さまのお顔を拝見しておりませんが、故郷滋賀の思い出を皆様と懐かしみながら、語りあえる日を楽しみにしております。

老年暴走族だより



〔VI 決断〕

平田 文一（近江八幡出身）

四月になると、いよいよ後期高齢者の仲間入りである。

老年暴走族も、シルバーマークを付けなくてはならない老・老年暴走族と言われる様になるのかな？ 現在の車がこの二月末で三回目（七年目）の車検を受ける事になり、よく走ったもので十一万キロの走行距離を示していた。年齢的にもあと何年乗れるか分からない。現在の車で車検を受けてあと三年ないし五年位乗り続けるか、新しい車にして残り年数を楽しく爽快に走るか、気持ちいが相当に揺れた。

デイラーのサービスアドバイザーは、車も十萬キロを超えると多くの部品を交換する様になる。新車だと三年間は保証中で、部品代の必要もなく基本的な点検項目も価格に含まれている。などと説得する。実は、昨年十一月に義姉の三回忌で帰郷した時に、三歳年上の従兄がパジェロミニを乗り回していた、二軒隣りの八十半ばの方が、十人乗りのハイエースに乗って週に二回ないし三回近くの風呂に出掛けており、年に一度はふるさとの山形に帰っているとの事。ならば自分もまだ大丈夫だ、と思い新車に換えようとの気持ちになったのが十一月二十日頃で、デイラーに納車は車検が切れる翌年の二月で良いからと価格提示を依頼、相手は年内納車の計画で見積を持って来た。十二月初めから十日頃の間に価格交渉のやり取りがあり二十日納車の日程で進められる事になり、当初は軽い気持ちで話していた事が現実となって、新年には新車に乗れる事になった。

もし車を買って替えるなら少し小さくして、排気量も二千五百から二千に落とし、燃費効率の良い車と考えていたが、お陰様で希望に近い車になり、今は買い換えて良かったと思っている。あとどれ位乗れるか分からないが、身体が動く間にあちこち行って、一つでも多くの思い出を作ればと考えている。

昨春秋以降遠距離のドライブは無く、法要で滋賀、京都に行った位である、その時に一日多く日程を組み観光をする予定でいたが、天候が芳しくなく傘持参で宇治の平等院に十数年ぶりに行ったくらいである。あとは、日帰りで長野までリングゴを買いに行ったり、藤枝の岡部にコスモスを見に行ったり、丹沢湖へ紅葉散策した程度である。暖かくなったら楽しみを増やしていきたいと思っている。



近江の名句・名歌 ⑥

鉄道唱歌 第一集「東海道」(大和田建樹作歌)より

山はうしろに立ち去りて 前に来るは琵琶の海 ほとりに浴いし米原は 北陸道の分岐
 線 彦根に立てる井伊の城 草津にひさぐ姥が餅 かわる名所も名物も 旅の徒然のう
 きはらし いよいよ近く馴れくるは 近江の海の波のいる その八景も居ながらに 見て
 ゆく旅の楽しさよ 瀬田の長橋右に見て ゆけば石山観世音 紫式部が筆のあと のこ
 すはここよ月の夜に 粟津の松にこととえば 答えがおなる風の声 朝日將軍義仲の
 ほろびし深田は何かたぞ 比良の高嶺は雪ならで 花なす雲にかくれたり 矢走にいそぐ
 舟の帆も みえてにぎわう波の上 堅田におつる雁がねの たえまに響く三井の鐘 夕
 ぐれさむき唐崎の 松にや波のかかるらん むかしながらの山ざくら におうところや志
 賀の里 都のあとは知らねども 逢坂山はそのままに

近江そして・・・ — 四 — 伊藤 正 (安土出身)



今年のNHK大河ドラマは、「江」姫たちの戦国」で、江が主人公であるから、二月半ばにして、父長政、伯父信長は亡く、義父勝家の賤ヶ岳の戦いも真近い。

今回で五十作目になり、近江が関連する物語は数多い。この中で信長は十四人で、私を含め、当時の戦国乱世から近世・江戸時代頃に多くが興味を持つていると思われる。

今回の信長は、一般に言われている信長像と少し異なった、江の素敵なおじさんとして描かれ、特に明智光秀との関係などはうまくアレンジしてあるなあと、面白く日曜日の楽しみが一つ増えた感があり、姫たちから見た徳川三代までのドラマが楽しみです。

滋賀(近江)から静岡に至る岐阜、三重、愛知の五県(既に出てきている京都、福井等は次の機会に)の、姫たちの時代に関係する城址(ドラマに出ない城もある)で訪れたところを拾ってみた。(興味のある方は、<http://www.geocities.jp/fasii12> を覗いてみてください)

- 滋賀 安土、近江八幡、小谷、観音寺、坂本、佐和山、膳所、長浜、彦根
- 岐阜 犬山、岩村、大垣、岐阜、高山、苗木
- 三重 伊賀上野、亀山、津、鳥羽、松坂、丸山
- 愛知 大草、大高、岡崎、刈谷、清洲、桑名、小牧山、田原、豊橋、長篠、長島、名古屋、西尾、野田、丸根、鷺津

静岡 天方、掛川、相良、静岡、高根、高天神、鳥羽山、葦山、浜松、二俣、横須賀

これはあいうえお順で、織田、豊臣、徳川と時代で別けるともつとすつきりしてくる。いずれも、攻撃に対する防衛に必要で、天下統一の名目で力(富)で弱者を従える戦いのためであった。結果的には、江戸時代約三百年比較的平穏(○)な時代に成ったが、幕末から明治に至り、また戦争が始まり現在に至っている。信長の時代、国取物語だけでなく、比叡山、一向宗との宗教戦争も壮絶であった。世界を見ても、十一世紀からの何回かの十字軍・・、今なお中近東での紛争が絶えない状態にあるといえる。

幸か不幸か、現代の日本は宗教は憲法で保障され、何でもあり(少し言いすぎか)と平和を満喫している(できている)。信ずるものがないことの弊害もないとはいえないが、何事も受け入れられるという、過去から培われてきた結果の国民性も関係している。

ほぼ同一民族で、周りを海に囲まれ外国からの侵攻が少なかったこともあるが、宗教に對しては、信長の「宗教を政治に持ち込んではいけない」という、彼の宗教政策が現代まで生きているという説がある。

なるほどと思う節もあるが、これに限らず当時としては斬新な考えで天下布武を進めたことは、日本史の一大エポックといえる。

滋賀の味 ⑥ 「ゴリの佃煮」



ゴリは典型的なハゼ類の形をした淡水魚をこう呼ぶが、この名で呼ばれる魚は地方によって異なる。琵琶湖近郊ではハゼ科のヨシノボリをこう呼んでいる。

せいぜい全長数センチの小魚だが、これの佃煮を熱いご飯にのせて食べれば、食がすすむこと請け合い。

ゴリは吸盤状の腹ビレでへばりついて生息するため、漁の際には水底を削るように力を入れて引く必要がある。この漁法から、抵抗があっても強引に押し進めることを「ゴリ押し」と言う。

滋賀県の文化施設4 浅井歴史民俗資料館(お市の里)



湖北に位置する浅井町(現在は長浜市)は、越前、美濃に通ずる交通の要所であり、戦国の世には、天下の命運を決する多くの合戦の舞台ともなった。当地はNHKの大河ドラマ「江」姫たちの戦国」の熱気に沸いているが、特にこの資料館の人气が高い。

☆滋賀県長浜市大依町五二八

☆JR長浜駅よりバス(高山線)で「アヤハディオ」下車

☆北陸自動車道・長浜ICより一〇分

☆月曜・祝日の翌日は休館 料金三〇〇円

☆お問い合わせ 0749-74-0101

この会報を長く続けたいと思います。原稿は左記へお寄せください。

会報をお望みの方は返信用封筒を同封し、左記へお申越しください。

(発行所) 〒410-0874 沼津市松長九二一-六-一〇〇三 三上八郎